

令和4年度 宅地建物取引士資格試験

★★試験概要と合格ライン予想★★

<1> 申込者数・受験者数等の推移

試験年度	申込者数	受験者数	合格者数(率)	合格基準点
令和元年度	276,019人	220,797人	37,481人(17.0%)	35点
令和2年度 (10月試験)	204,163人	168,989人	29,728人(17.6%)	38点
令和2年度 (12月試験)	55,121人	35,261人	4,610人(13.1%)	36点
令和3年度 (10月試験)	256,704人	209,749人	37,579人(17.9%)	34点
令和3年度 (12月試験)	39,814人	24,965人	3,892人(15.6%)	34点
令和4年度	283,856人	226,022人(速報値)	令和4年 11月22日発表	令和4年 11月22日発表

<2> 試験問題の講評

★問題の難易度：『昨年10月試験(34点合格)より、やや難しめ』		
科目	合格目標点	科目別の講評
権利関係 問1～問14：14問	7点	過去問未出題の論点が多かったため、7点が目標となる。出題頻度の高い項目からの出題(意思表示、代理等)がなかった点や、「問5(期間計算)」・「問7(失踪宣告)」・「問8(地上権と賃借権)」・「問9(辞任)」等、非常に解きづらい問題があった点が、今年の特徴である。「問1(対抗要件)」・「問2(相続)」・「問4(抵当権)」・「問13(区分所有)」を確実に正解し、過去問未出題の論点を現場思考でどれぐらい正解できたかがカギとなる。
法令上の制限 問15～問22：8問	5点	「問18(建築基準法)」・「問21(農地法)」は正解を出すのが困難であったため、失点したとしても合否に影響はないと考えられる。「問15(都市計画法)」・「問19(宅地造成等規制法)」・「問20(土地区画整理法)」・「問22(国土利用計画法)」は確実に得点したい。
税金・価格評定 問23～問25：3問	2点	「問23(印紙税)」・「問24(固定資産税)」については、どちらも詳細な選択肢が入っていたが、どちらか1問は得点したいところである。「問25(地価公示法)」は、正解肢が定番論点であるため、確実に得点したい。
宅建業法 問26～問45：20問	16点	正解が出しづらい問題(「問34(重要事項説明)」・「問37(個数問題)」・「問40(個数問題)」)もあったが、16点は得点したい問題である。「問28(重要事項説明)」・「問32(契約書面)」等は確実に得点したい。
<登録講習修了者 免除項目> 諸法令・統計等 問46～問50：5問	5点	詳細な選択肢もあったが、近年、この5問は正解率が高く、今回は5点取りたい問題である。

<3>合格ライン予想 (登録講習修了者の方は問1～問45のご自身の得点に「+5点」をご覧ください。)

35点・36点	確定的ではありませんが、合格ライン上にあるものと予想します。
34点	現時点では合否の判別ができません。合格発表をお待ちください。

※合格発表日：令和4年11月22日(火) — 合格者には11月22日発送の郵便で合格証書が送付されます。なお、11月22日午前9:30より、不動産適正取引推進機構ホームページにて、「合格者の受験番号」・「合否判定基準」・「問題の正解番号」が掲載されます。

※試験問題の講評・合格ライン予想は、10月20日現在の資格の大原独自の見解で作成/提供しており、11月22日に公表される実際の結果と異なる場合がございます。また、試験問題の講評・合格ライン予想の根拠等につきましては、電話等でのお問い合わせは受け付けておりませんので、あらかじめご了承ください。